



一開業医が考えたこれからの医療テーマ

首里城下町クリニック第一 田名 毅



平成13年に開業して早6年目に入りました。当初は1日30名の外来患者さんを診療し、最大で80名の透析患者さんと長くお付き合いができれば自分らしい医療ができるのではと考えて開業しました。現実には、高血圧、糖尿病をはじめとする生活習慣病の患者さんが多いこと、また、それらに伴い透析にいたる患者さんが予想以上に早く増加し、当初の施設では地域のニーズに十分応えられなくなり第2クリニックをオープンしました。私一人でこれだけ多くの方々の“命”を預かることは困難だと考え、同級生の比嘉啓先生に加わってもらい、現在は一人では感じていたプレッシャーを分かち合ってもらい助けられています。そして、私達は一緒に飛行機には乗らないようにしています。これはリスク分散と考えています。一旦、地域で医療をはじめた以上、誰かがこのクリニックを継続し続けることで当院を信頼し通院している人々を路頭に迷わすような事態を作りたくないと考えているからです。比嘉先生は本当の意味でのビジネスパートナーです。

さて本題に入りますが、私はこれからの医療を考えたときに取り組まなければならない2つの大きなテーマがあると思います。第一はメタボリック症候群に象徴される男性の健康状態の悪化です。女性も太っているとはいえ今、照準をあてるべきは若年～中年男性だと思います。健康に自信過剰な男性の健康意識の低さには目に余るものがあり、これが虚血性心疾患や脳卒中、腎不全に至る人を増やし、医療費高騰につながっていると思います。“男性”にもっと力を入れた保健指導が必要であり、私は現在、そ

の一貫として医師会活動、クリニックの活動として産業保健活動に力を入れて取り組んでいます。平成20年度から導入される新健診制度は受診者の増加、それに伴う保健指導の強化により医療現場にも混乱が生じる可能性があります。これを好機ととらえ医療と保健が一体となった活動が社会全体で可能になればと考えています。その中でわれわれ個人医療機関にしかできない役割は何であるかを常に考えていきたいと考えています。

第二がベビーブームの人たちが60歳を過ぎ、すでに始まっている高齢人口の増加です。現在すでに医療費が最もかかっている年代は70歳以上の世代であります。この人口が多くなることはそのまま高血圧、糖尿病などで医療機関にかかる人口のさらなる増加につながることは予想に硬くありません。私たち開業医はこれらの『新老人』の方々と診療の現場で向き合いながら、その方々が現代社会の中で気持ちよく生活できるように応援していく立場にあると思います。核家族化の進行による独居老人、退職に伴ううつ状態、伴侶の病気や死などによる喪失体験からくるうつ状態の方々と開業医として日々接していますので、その必要性、重要性を強く感じています。これまでの医療機関は来院する方々の診療が中心でしたが、もっと自治体をはじめとする社会に積極的に参加し地域の健康増進に何ができるのかを考えていく必要があると思います。

当院の診療体制としましては首里城下町クリニック第一が高血圧を中心とした生活習慣病、慢性腎不全の進行予防、リウマチ膠原病などの

外来診療、首里城下町クリニック第二が残念ながら透析に至った方々の日々の管理を行う透析診療、というように機能を分化して取り組んでおります。前述した医療テーマを念頭において首里城下町クリニック第一では、働く世代の健康管理を意識した「働く人健康支援室」を保健師と一緒に立ち上げました。今後は退職後の方々の健康支援もできるような「町の保健室」

的な活動も検討したいと考えております。

社会の中で私たち医師にできること、やらなければならないことはたくさんあると思います。来るべき次の時代が、人に優しく温かい時代になるよう、私たち医師にできることは何かを常に考えながら日々の診療に携わっていきたいと考えています。



比嘉啓先生



首里城下町クリニック第一



首里城下町クリニック第二